

弦楽合奏団
エテルニータ

弦楽合奏団エテルニータ第18回コンサート

2024年 6月30日 [日]

14:00 開演 (13:30 開場)

ライトキューブ宇都宮 3F 中ホール

ごあいさつ

本日は弦楽合奏団エテルニータ第18回コンサートにご来場いただき、誠にありがとうございます。宇都宮短期大学及び同附属高等学校音楽科の卒業生を中心に結成した当合奏団は、できる限りレベルの高いアンサンブルを目指し、コンサートを開催してきました。

今回は本団に所縁のあるオーボエの田渕哲也氏、ヴァイオリンの山田友子氏をソリストに迎え、J.S.バッハの「オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV 1060」を演奏いたします。

また、作曲家の山田栄二氏の作品の演奏は今回で7回目となります。「花の五百羅漢～弦楽のための」は、第12回のコンサートでも演奏させていただきました。今回は吉澤真一氏の指揮により、前回とはまた一味違った演奏をお聴きください。

結びに日頃の皆様のご支援に深く感謝しますとともに、なお一層の精進をお約束して、18回目コンサートのあいさつとさせていただきます。

弦楽合奏団エテルニータ



PROGRAM



ヴィヴァルディ：弦楽のための協奏曲 イ長調 Rv.158

A. Vivaldi Concerto for string A-major Rv.158

サンマルティーニ：シンフォニア ト長調

G.B. Sammartini Sinfonia G-major

J.S.バッハ：オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV 1060

J.B. Bach Concerto for Violin and Oboe in D-minor BWV 1060

Ob. 田渕哲也 Vn. 山田友子

*** 休憩 ***

山田栄二：花の五百羅漢 ～ 弦楽のための

ロッシーニ：弦楽のためのソナタ 第1番 ト長調

G. Rossini Sonata for Strings No.1 G-major

芥川也寸志：弦楽のための三楽章

Yasushi Akutagawa Triptyque for string Orchestra

ヴィヴァルディ (1678~1741)

弦楽のための協奏曲 イ長調 Rv.158

ヴィヴァルディはヴェネツィアを拠点に活躍したバロック後期の作曲家、ヴァイオリン奏者、教育者そして聖職者。作品の多くは溢れんばかりの生命力を宿している。その作曲のスピードは、「写譜屋に写してもらう位なら、新しい曲を作った方が早い。」と、豪語する位早かったらしい。協奏曲、オペラ、宗教曲等800を超える作品を残したと考えられるが、紛失や偽作も多く全貌は今も研究中である。

ヴィヴァルディはヴァイオリン奏者としても人気高くヨーロッパ中を駆け巡っていた。またヴェネツィアのピエタ修道院の女子学生を中心としたオーケストラを育て上げ、その公演には国内外から多くの人々が集まるなど指導者、企画者としての手腕も発揮した。

反面、万民から好かれるタイプで無かったらしく晩年は驕りを見せ、手を差し伸べる者もなく没しウィーンの貧民墓地に埋葬された。

急→緩→急の3楽章の協奏曲スタイルを定着させるなど、バッハ始め後世への影響は大きい。

I. Allegro molto II. Andante molto III. Allegro

[吉澤真一]

サンマルティーニ (1700~1775)

シンフォニア ト長調

ジョバンニ・バッティスタ・サンマルティーニは、バッハやヘンデルよりも15才程若いイタリアの作曲家です。グルックの師であり、14才のモーツァルトがミラノに到着したとき、その才能を賞賛し援助の手をさしのべたことでも知られています。70曲ほどの交響曲を残していますが、ハイドンの最初の交響曲の20年前に書かれたこのト長調は、交響曲の先駆的作品として貴重なものと言えるでしょう。

I. アレグロ II. グラーヴェ III. アレグロ・アッサイ IV. メヌエット

[山田栄二]

J. S. バッハ (1685~1750)

オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV 1060

2台のチェンバロの為の協奏曲としても演奏されることが多く、数ある協奏曲の中でも円熟した作品の一つと言われている。自筆譜が現存していないために詳細は不明だが、「2つのヴァイオリンの為の協奏曲ニ短調BWV1043」(1718年)が作曲されたケーテン時代の作品であると考えられている。

I. アレグロ II. アダージョ III. アレグロ

[山田栄二]

山田栄二

花の五百羅漢 ~ 弦楽のための

五百羅漢(ごひゃくらかん)とは、釈迦の直弟子の中でも特に位の高かった五百人の僧の事を言います。埼玉県川越市、東京都目黒区、大分県中津市の羅漢像はよく知られていますが、作者が取材したのは兵庫県加西市北条町の石仏たちです。他の羅漢さんたちのリアルな表情とは違って、稚拙さの中にも素朴で温かみのある風情がととても魅力的だったからです。

単純なリズムが微妙に変化していく前半部、悲しみに満ちた中間部、そして風に散る花びらが羅漢さんの頭上に降り注いでいく終結部といった三つの部分から出来ており、日本的な香りのする親しみやすい作品になっています。

[山田栄二]

ロッシーニ (1792~1868)

弦楽のためのソナタ 第1番 ト長調

「弦楽のためのソナタ」は6番まであり12才で作曲したと云われている。すでにこの時期ロッシーニは合唱指揮者、チェンバロ奏者、ソプラノ歌手として活動している。ロッシーニはオペラ作曲家として知られているが14才で最初のオペラを書き、生涯40に及ぶ作品を残している。20代半ばにはヨーロッパ中でオペラ界最高の作曲家と賛美され、34才でフランス国王より終身年金を支給されるようになる。しかし37才「ウィリアム・テル」の作曲を最後としオペラ界から引退している。

美食家としても知られ「ロッシーニ風ステーキ」始め料理界にも影響を及ぼした。しかし腰痛、淋病、痔疾、尿道炎等多くの病を抱え精神まで病んだりした。

慰めてくれたのは高級娼婦オランプ・ペリシェ(文豪バルザックの元愛人)でありロッシーニは後にこの女性と再婚している。

改めて「弦楽のためのソナタ第一番ト長調」は瑞々しく、後年に繋がる発想を感じさせる。ヴァイオリン2パートにヴィオラが無くチェロ1、コントラバス1の4部編成。始めはロッシーニの気の置けない仲間四人で楽しんだ。コントラバスはトリオッシという友人兼大家そしてパトロンが受け持った。コントラバスにソロがあるのも面白い。

I. Moderato II. Andantino III. Allegro

[吉澤真一]

芥川也寸志 (1925~1989)

弦楽のための三楽章

芥川也寸志は文豪芥川龍之介の三男。学年中最下位での大学入学(現東京藝大)など音楽家としては晩学だった。しかし20代で「交響三章」「交響管弦楽の音楽」など秀逸な作品を残している。「弦楽の為の三章(トリプティーク)」は28才の作品。

「トリプティーク」は指揮者クルト・ヴェスに依頼されニューヨーク・フィルによって初演された。この曲は今や弦楽合奏の定番曲として世界中で演奏されている。

I. Allegro II. Andante「Berceuse-子守歌」 III. Presto

また芥川は1954年国交も無く命の危険さえあったソ連に単独密入国し、カバレフスキー、ハチャトゥリアン、ショスタコーヴィッチと交流を結んでいる。胆力と行動力の人でもあった。

洗練された物腰、分かりやすい話しぶりでテレビ、ラジオの出演も多く昭和のクラシック愛好家には欠かせない存在だった。

「八甲田山」「八つ墓村」など多くの映画音楽も手がけている。

[吉澤真一]

Eternita

弦楽合奏団

指揮 吉澤真一
ヴァイオリン 青柳敬子 赤羽根洋子
川俣洋子 小岩貴子
小松崎倫子 土屋恵子
中村美和 福富恵子
ヴィオラ 亀山由紀子 川沼文夫
中村淑江 宮田佳代
チェロ 君島茂 瀬畑むつみ
八木澤亮
コントラバス 増山一成
スピネット 福田有理絵

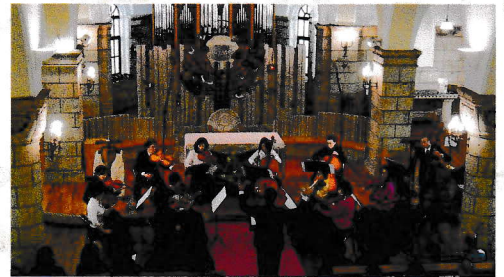
ステージマネージャー 小林俊夫

弦楽合奏団 エテルニータ

「エテルニータ」とはイタリア語で「永遠」を意味します。
この弦楽合奏団は 2000 年 03 月に行われた宇都宮短期大学百周年記念コンサートで再会し、宇都宮短期大学附属高校音楽科(あるいは宇都宮短期大学音楽科)で学んだ有志で結成されました。

そして未永く活動していこうという願いを込めて「エテルニータ」と名付けたのです。

音楽に限らず、何かを学んでいくことに終わりはありません。私たちは世界中の偉大な作曲家達が残してくれた、数えきれないほどの作品に触れ、それを勉強することで少しずつ前進していこうという意味を持った音楽家の集まりです。



吉澤 真一 / 指揮

宇都宮短期大学附属高校音楽科卒。東京藝術大学器楽科卒。ファゴットを山畑馨、三田平八郎、アルフレド・ヘニゲの各氏に師事。室内楽を森正、吉田雅夫、細野孝興の各氏に師事。田淵進先生より音楽全般に渡る教えるを受ける。第51回日本音楽コンクール入選。NHK洋楽オーディション合格。NHKFM「午後のリサイタル」、「FMクラシックアワー」、「青少年コンサート」等出演。モスクワ放送交響楽団、ポーランド室内管弦楽団の日本ツアーに参加。「アンサンブル・オーケストラ・エローラ」指揮者兼奏者として参加。山田栄二作曲オペレッタ「不思議の国のアリス」完成版初演指揮する。

宇都宮短期大学非常勤講師。元東京フィルハーモニー交響楽団団員。著書「偉大な作曲家より学ぶ18のファゴット練習曲」バンドジャーナル「ワンポイント・レッスン」など吹奏楽関連の執筆多数。「芸能人格付けチェック」出演(笑)。「迷惑改造車を止めてもらう会」会員。



田淵 哲也 / オーボエ

宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部器楽科オーボエ専攻卒業。1993年、東京文化会館新進音楽家デビューオーディション合格・同会館新進音楽家デビューコンサート出演(現在の東京音楽コンクール)。1996年、第2回浜松国際管楽器フェスティバルにおいて新人演奏会出演。1997年、東京藝術大学室内楽オーディション合格・同大学室内楽演奏会出演(木管5重奏)。オーボエを斎藤享久、鈴木尚雄、河野剛、小畑善昭、G.シュマルフスの各氏に、室内楽を山本正治、四戸世紀、岡本正之の各氏に、指揮を城谷正博、黒尾実の各氏に師事。現在、ソロ、室内楽、オーケストラ等の演奏活動の傍ら後進の指導にも力を注いでおり、東京藝術大学をはじめ各音楽大学、音楽高校へ生徒を進めている。

アンサンブル「イヴローニユ」、森の五重奏団、MCFオーケストラとちぎ、東京アーティスト合奏団オーボエ奏者。洗足学園音楽大学准教授、新潟県新潟中央高等学校音楽科、宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。日本吹奏楽指導者協会(JBA)会員。



山田 栄二 / エテルニータ顧問 作曲・編曲

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。

作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。

作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那須野巻狩り」

「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「ファブル昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。1999年県文化奨励賞受賞。



山田 友子 / ヴァイオリン

宇都宮市出身。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部卒業。これまでに、鷲見健彰、福富恵子、大谷康子、篠崎史紀、影山誠治、浦川宜也の各氏に師事。第41回全日本学生音楽コンクール入選。ヴィクトリア(カナダ)JISA国際音楽祭、蓼科高原音楽祭に参加。霧島国際音楽祭、奨励賞受賞。1997年読売日本交響楽団に入団。2013年から16年まで2ndヴァイオリン首席代行を務める。また室内楽活動にも力を注いでおり、読響アンサンブルシリーズにてピアニスト上岡敏之との室内楽コンサートを毎年行なっている。